The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ザンビアにあるTICOの活動フィールドを訪問して
Author(s)	大橋, 瑞紀
Citation	目で見るWHO. 2012, 50, p. 32-33
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86743
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ザンビアにあるTICOの活動フィールドを訪問して

滋賀医科大学医学部医学科3年　大　橋　瑞　紀

モンボシのヘルスポスト(左)とお産を待つ家(右)

2012年8月、徳島を拠点として活動しているNGO団体、TICOが支援しているザンビアというアフリカの国を訪問しました。TICOは現在、首都ルサカから車で2時間ほどのモンボシ地域において、妊産婦死亡率の改善に取り組んでいます。私は、TICOが活動しているモンボシ地域を5日間訪れ、ヘルスポストの見学や、現地ボランティアの住む村でのホームステイを通じて、現地の医療や生活の様子を学んできました。

ヘルスポストの待合室

モンボシのヘルスポストには、看護師(兼助産師)が一人しかおらず、365日24時間の診療はほぼ彼女一人が担っていました。看護師以外には数人のボランティアが活動しており、血圧測定や、マラリアおよびHIVの検査等、ボランティアの力に頼っている面も多く、ボランティアの誠実さに感銘を受けるとともに、改善点の一つであると感じました。私が訪れた日も、HIVの検査を行っており、一組の夫婦がHIV陽性でした。日本では実感することのないHIVの存在を目の当たりにし、戸惑いを感じました。

HIVの検査をしている様子

TICOは、ヘルスポストから歩いて何時間もかかる村に住む妊産婦が安全なお産をできるよう、ヘルスポストの側に「お産を待つ家」という、お産を間近に控えた妊産婦が待機できる施設を建設しました。

安全なお産について説明をする現地ボランティア

予防接種をしている様子

しかし、そもそもヘルスポストには看護師が一人しかおらず、お産を待つ家をカバーできるマンパワーがないため、すぐには実用に至らないのが現状のようでした。現在、政府にもう一人看護師を派遣してもらえるように交渉中とのことでしたが、一筋縄にはいかない支援の難しさや、ひとつひとつの交渉の重みを感じました。

現地ボランティアのミーティングの様子

モンボシ滞在中は、現地ボランティアの家にホームステイをしました。簡素な生活ですが、子供達の笑い声に満ちた、穏やかな毎日でした。幸せそうに暮らす彼らを見て、私たちのような外部の人間ができることはないのではないか、と思う時もありました。
しかし、現地の人々も気づいていないような隠れたリスクを見出だし、信頼されながら活動しているTICOスタッフの方々や、地元のために誇りを持って活動するボランティアの姿を見て、問題点を共有し、納得し、改善に向けて共に努力することの必要性を感じました。私もまたいつか、ザンビアの人々が抱える問題と向かい合うために、ザンビアの地を再び訪れたいと思っています。

朝ご飯を作っているところ

ヘルスポストや村でお世話になったみなさま

村長さんにご挨拶に行った時